



5 少年倶楽部附録「熱狂野球盤」

昭和2(1927)年9月1日

『少年倶楽部』の附録として配布された簡易野球盤です。将棋の駒や小石を選手、インキ瓶の蓋をバットに見立てて遊ぶもので、当時の娯楽文化と野球人気の高まりをよく示しています。

前年の大正15(1926)年には、前橋中学が夏の甲子園で静岡中学と延長19回に及ぶ激戦を繰り広げ、地域でも野球熱が大きく高まっていました。こうした背景のもと、野球は子どもたちに広く親しまれていました。

中島徳造家文書『少年倶楽部付録(熱狂野球盤)』(P8909 9034)

8909
9034